Pātañjalayogaśāstra その1

『ヨーガスートラ』『ヨーガバーシュヤ』その作者

2024年5月28日

“Pātañjalayogaśāstra”

基本事項
何のこと？

- PYŚ はスートラ部分と注釈（バーシュヤと一般に呼ばれる）二つのテキストを合わせたもの
- 普通，元があってそれに注釈が書かれるのでは？
-

一般的な理解

- 『ヨーガスートラ』がヨーガの根本経典
- 少し詳しくなると，それにはいろいろな注釈があって…
- 代表的なものは一般的に『ヨーガバーシュヤ』と呼ばれる注釈
- それぞれ
  - スートラはパタンジャリ
  - バーシュヤはヴィヤーサ
- に帰せられることが多い

サンスクリットテキストの伝承パターン
どうやって我々の元に届くのか

- まずは著作，作者がいて，ある日著作に思い至り，一定の期間を経て作品を完成させる
- 作者は一人かも知れず，グループかも知れず。あるいは，最初のバージョンの完成後も後代の人々が変更を加え続けたかも知れず
  - どのパターンにせよ，ヒントは隠されている
- 作品・著作は写本の形で伝わる
- 写本は書写の連続なので，移す過程で必ず変化（写し間違いであったり意図的な変更であったり）が伴う

『ヨーガスートラ』と『ヨーガバーシュヤ』の場合

実際に現存する証拠（写本）を見てみると

- どちらのタイトルも実際のサンスクリット文献には現れない
- 代わりに，Pātañjalayogaśāstra, Pātañjaladarśana という呼称で言及される
- 時代が降ると Pātañjalayogasūtra という言い方も現れる
- 基本的にこれらはスートラ部分に対する言及
- バーシュヤの作者を Vyāsa とするのはづいぶ遅い伝統
- 古い時代には作者の名は言及されない

Pātañjalayogaśāstra
スートラ部分とバーシュヤ部分からなる一つの著作

- 最も古い時点ではスートラ部分とバーシュヤ部分をまとめて一つの作品として扱われていた可能性が高い
- とは言え，おそらくはスートラ部分は基本的に先に存在していて，それにバーシュヤが付加された？
- どちらも作者の名前は不明？
- パタンジャリの名はバーシュヤの中で一度言及される（3.44）
  - しかし，自らが注釈するテキストの著者と同一人物という認識なはし
- Vyāsa の名は現存する最古のバーシュヤへの注釈，ヴィヴァラナの中に現れるが，そこでも Vyāsa がバーシュヤの作者であるという認識はない（マハーバーラタの作者として名が言及される）

結局どういうこと？
これまでにわかっていること

- Pātañjalayogaśāstra はスートラ部分とバーシュヤ部分からなる
- おそらく両者の作者は別
  - バーシュヤ作者がスートラの意味を理解していない箇所がある
- Pātañjala という呼称はおそらくオリジナル
- Vyāsa とどうして結びついたのかは不明

パタンジャリ
何人のパタンジャリ？

- 最も有名なパタンジャリは文法家
- サンスクリット語の文法をまとめたパーニニの Aṣṭādhyāyī に対する Vārttika に対する注釈 Mahābhāṣya
  - 後の多くのバーシュヤ，śāstra はこのスタイルを踏襲する
- 紀元前2世紀の人

アーユルヴェーダとパタンジャリ
Meulenbeld 1999: 141–144

- 医学書（複数）の著者パタンジャリ
- ラサーヤナに関するテキストの著者パタンジャリ
- 冶金術に関するテキストの著者パタンジャリ
- チャラカサンヒターに対する注釈（複数？）の著者パタンジャリ

最終的に
全てのパタンジャリは一つのパタンジャリへ

- ボージャ王の時代（11世紀）医学の権威，文法の権威，ヨーガの権威としてのパタンジャリを同一人物とする伝承が確立

果たして偶然？
それとも何か根拠は？

- 『マハーバーシュヤ』の始まり
  - **atha śabdānuśāsanam**| athety ayaṃ śabdo ʼdhikārārthaḥ prayujyate| śabdānuśāsanaṃ nāma śāstram adhikṛtaṃ veditavyam|
- 『パータンジャラヨーガシャーストラ』の始まり
  - **atha yogānuśāsanam**| yogānuśāsanaṃ śāstram| athety ayam adhikārārthaḥ|
- 基本的に同じ

さらに
Pātañjalayogaśāstra と文法学

- yogaḥ samādhiḥ|
  - dhātupāṭha 4.68 への言及
- citiśakti という単語をサーンキヤの puruṣa の同義語として
  - これは動詞語根 cit （知る）の意味表示能力のこと
- もしくは puruṣa を動詞語根 cit と同一視する
- 文法家の哲学，動詞語根は時間や場所などに限定されない，に基づく
- sphoṭa 説を認める
  - 言語における意味表示能力は大きなユニットに属するという説

少々文法学派の哲学について

- パーニニ（紀元前4世紀？）
- カートヤーヤナ（紀元前3世紀？）
- パタンジャリ（紀元前2世紀）
- バルトリハリ（紀元後5世紀？）
- pāṇinisūtra, dhātupāṭha, etc.
- 文法家の不二一元論

文法家たちの思想を強く継承しているという意味で
Pātañjala

- サンスクリット語で pātañjala といった場合,　「パタンジャリ派」という意味も持つ
- 「（文法家）パタンジャリに従うものたちのヨーガ教典」という意味で, pātañjalayogaśāstra というタイトルを捉えることは可能
- そこから逆に「パタンジャリ作のヨーガ教典」と理解されるに至ったという可能性もあり

ただ一方で
サーンキヤ学者のパタンジャリも

- 先に言ったバーシュヤ内での言及
- 『サーンキヤカーリカー』への注釈『ユクティディーピカー』におけるサーンキヤ学者パタンジャリへの言及
- どちらも『パータンジャラヨーガシャーストラ』の説への言及とはにわかに結論できず
- よって，サーンキヤ学者のパタンジャリも存在した可能性あり

インドにおける同じ著者名の使い回し

多くの著作が帰せられている著者の例

- パタンジャリ
- ナーガールジュナ(龍樹)
  - 仏教の著作
  - ラサーヤナ
- バルトリハリ
  - 文法学
  - 美文
- シャンカラ
  - 約300の著作？

パータンジャラ・ヨーガシャーストラの構成要素

各種哲学と各種ヨーガ

- サーンキヤ
- 仏教
- 文法学
- ヒラニヤガルバのヨーガ
- そもそもの目的は？
  - …